

色原昌希・西野希展 春告げの茶

2025年3月22日(土)～29日(土)

作家在廊日 3/22、23

3/23(日) 中国茶会(Sobae丸山紗加)



料金後納 ゆうメール



菊弁筋茶壺 Φ6.4/H8cm/70cc
 青花杯 Φ5/H5.4cm/20cc



象嵌茶壺 Φ6.2/H6.4cm/60cc



象嵌高台杯 Φ9.2/H6.5cm



象嵌茶海 Φ6.9/H9cm/170cc



象嵌茶壺 Φ6.2/H6.4cm/65cc



象嵌香茶杯 Φ4.3/H4.2cm/20cc



象嵌蓋物 Φ7/H7.6cm

色原昌希・西野希展 春告げの茶

2025年3月22日(土)～29日(土)

3/23(日) 中国茶会(Sobae丸山紗加) 詳細はネットでご案内します

作家在廊日 3/22、23

営業時間 11時～18時 最終日は17時迄

ギャラリーうつわノート 埼玉県川越市小仙波町1-7-6



色原昌希

Masaki Irohara

1988年 徳島県生まれ高知県育ち

2015年 多治見市陶磁器意匠研究所修了

2021年 陶磁器メーカー勤務を経て独立

2025年 岐阜県瑞浪市にて作陶

西野希

Nozomi Nishino

1990年 東京都八王子市出身

2013年 東京造形大学修了

2015年 多治見市陶磁器意匠研究所修了

2025年 岐阜県瑞浪市にて作陶

白い磁胎に精緻な象嵌が施された美しい茶道具。この茶壺は手のひらで包める程の大きさですが、その精巧な造りと緻密な模様の特徴で、まるで上質な雛道具のように解像度の高いミニチュアの世界を思わせます。岐阜県瑞浪市にお住いの色原昌希さんと西野希さんご夫妻によるものです。ご主人の色原さんが器本体を作り、奥様の西野さんが象嵌をはじめとする装飾を手掛けた共作です。お二人はそれぞれ独立した作家として活動していますが、今展では共同作品と個別の作品をご覧頂けます。色原さんは四国で生まれ育ち、大学で工学部を専攻。卒業後は2年ほど社会人の経験を経て、岐阜県多治見市陶磁器意匠研究所で陶芸を学びました。一方、西野さんは東京八王子生まれで、高専でプロダクトデザイン、美大でサステナブルデザインを学びました。卒業後は同じく意匠研に入り陶芸を習得しました。二人はそこで出会い、修了後にはそれぞれ陶磁器メーカーや製陶所で業務用食器のデザインや企画、管理に従事。これらの経験が「食器」や「茶器」において、市場の基準に応える技術とセンスを養いました。作家として独立した後は、色原さんは白を基調にした端正なろくろや鑄込み技法で白磁の茶道具を手掛け、西野さんは象嵌を施した白磁や、精緻な装飾が施された食器や酒器、茶道具に取り組んでいます。お二人に通底するのは白を基調にした清廉な茶の世界です。桜の開花も聞こえてくる頃、春を告げるお茶をお二人の茶器でご堪能ください。またこれに合わせて美しい茶の淹れ手である Sobae の丸山紗加さんによる中国茶会も開催されます。心華やぐ春を感じながらどうぞご来店ください。

店主